

**過疎地域の戦略的住宅マスタープラン施策の報告 - 徳島県上勝町の事例より - \***  
**Report on the Strategic Housing and Living Master-Plan in Sparsely Populated Area**  
**-Case Study of Kamikatsu-Town, Tokushima Pref.-**

澤田俊明\*\*、花本靖\*\*\*、山中英生\*\*\*\*、滑川達\*\*\*\*、花岡史恵\*\*\*\*\*、福田景子\*\*\*\*\*

By Toshiaki SAWADA\*\* Yasushi HANAMOTO\*\*\* Hideo YAMANAKA\*\*\*\*

Susumu NAMERIKAWA\*\*\*\* Fumie HANAOKA\*\*\*\*\* Keiko FUKUDA\*\*\*\*\*

## 1. はじめに

近年の中山間地域においては、少子高齢化の進展、過疎化、後継者不足、木材価格の下落に代表される地域産業の衰退などの、従来からの中山間地における諸課題が、より一層顕在化してきた。これら中山間地特有の諸課題に加えて、地球温暖化等の環境問題、構造的な社会的人口減少に起因する社会的体力の弱体化、産業衰退、財政難などの、国家的諸課題が、新たに中山間地域でも既に顕在化してきた。

ここでは、2003年より着手されたこれらの諸課題を有する人口約2,100人の徳島県上勝町における持続可能な地域づくりの観点から策定された戦略的住宅マスタープランの策定状況について報告する。

## 2. 上勝町のまちづくりの課題

### (1) 中山間地域の2重の課題

近年の中山間地域においては、少子高齢化の進展、過疎化、後継者不足、木材価格の下落に代表される地域産業の衰退などの、従来からの「中山間地における諸課題」が、より一層進展してきた。これら中山間地特有の諸課題に加えて、地球温暖化等に代表される地球環境・自然環境・野生生物環境などの一連の環境問題、我が国における歴史的・構造的・社会的な人口減の進展とこれに伴う経済的・社会的体

力の弱体化、安い海外労働力に起因する国内の産業衰退、そして、これらの複合的な結果としての国・地方自治体における財政難などの、歴史的・構造的・社会的・国際的な「国家的な諸課題」が、新たに中山間地域でも顕在化してきた。

このように、中山間地域においては、「中山間地における諸課題」と「国家的な諸課題」の“2重の課題”に直面しており、これらの諸課題の「悪い循環」が形成されている。

### (2) 上勝町の課題

中山間地域に類別される上勝町も、(1)に示した中山間地の“2重の課題”に直面している。この中で、上勝町での最重要課題は、「少子高齢化・過疎化による人口減少に伴う将来の担い手不足」と言える。森林維持管理、里山・棚田の維持管理、日常生活環境の維持管理など、町が存続する最も重要な要素である「人口減少」が止まらないことが、持続可能な上勝町維持のための最大の危機要因となっている。

図1は、昭和25年から平成12年までの人口及び世帯数の推移を示したもので、昭和25年6,356人、昭和45年4,057人、平成12年2,124人と大きく減少している。上勝町では、平成15年1月時点で高齢化率が約46%に達した。

上勝町における人口減少の要因としては、第一に雇用環境の悪化が存在する。上勝町に居住したくても雇用がないため、必然的に町外へ出て行かざるを得ない状況が続いている。持続可能な地域づくりには、「環境」「経済」「コミュニティ」に対して、同時に取り組む必要があるが、上勝町においては、雇用＝経済課題を優先的に解決していく必要がある。つまり、【雇用なくしては定住なし】の状態から脱皮することが、緊急課題となっている。表1に上勝町の緊急課題を示す。

\* キーワーズ 地域計画、住宅マスタープラン  
\*\* 正員、博(工)、日本建設コンサルタント(株)(〒770-0802 徳島市吉野本町 1-14、TEL088-655-3248、FAX088-655-4763)  
\*\*\* 上勝町まちづくり推進課 (〒771-4501 徳島県上勝町福原下横峰 3-1 TEL08854-6-0111、FAX08854-6-0323)  
\*\*\*\* 正員、工博、徳島大学工学部 (〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1、TEL088-656-7350、FAX088-656-7579)  
\*\*\*\*\* 正員、(有)環境とまちづくり (〒771-4501 徳島県上勝町福原川北 30、TEL08854-4-6290、FAX08854-4-6291)

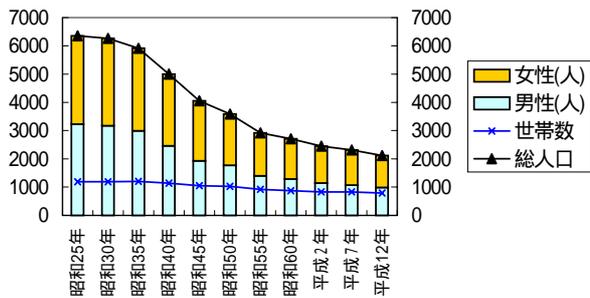


図1 上勝町の人口及び世帯数の推移(昭和25年～平成12年)

表1 上勝町の緊急課題

- ・ 少子化・超高齢化
- ・ 過疎化の深刻な進展
- ・ 人口減 地域後継者不足
- ・ 将来の担い手の決定的不足
- ・ 森林産業など地域産業の衰退
- ・ 雇用環境の悪化 / 地域で雇用の場がない 人材の流出

### 3. 計画策定の方針と経過

#### (1) 計画策定の方針

上勝町住宅マスタープランでは、“素晴らしい上勝町に人々が住み続けられる計画”として、多くの人の知恵や合意のもと、上勝町の持続可能な地域発展をみらみ、経済発展・エコロジー発展・コミュニティ発展に資する戦略的な地域居住施策・地域住宅施策の策定された。ここで、「戦略的」の意味は、的確な判断による、効果的な施策の立案、施策間の密接な連携、施策の絞り込み=重点化、を意味している。表2に計画策定の基本方針を、図2に基本方針の策定イメージを示す。

表2 計画策定の基本方針

上勝町全域を対象とし、【持続的かつ総合的な住宅施策・居住環境施策等】について、【基本方針・ハード施策・ソフト施策】について策定  
 上勝町全域を対象とした【産業振興・雇用環境づくり】に寄与する計画を策定。  
 上勝町に既に存する公共及び民間の【既存建物ストック】の活用を考慮  
 「実体(ものづくり・プランづくり)のデザイン」「利用・活動・雇用のデザイン」「人づくり・組織づくりのデザイン」「維持管理・リスク管理」「参加・場のデザイン」に留意  
 地域住民との連携・協働・主体性を重視してP Iを導入

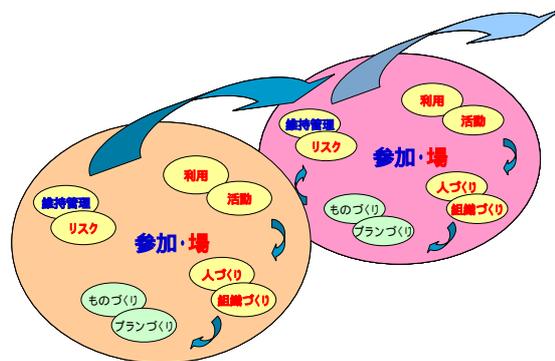


図2 基本視点 : 住宅マスタープランデザインの策定イメージ

#### (2) 策定の経過

表3に上勝町住宅マスタープランをめぐる経過を示す。上勝町住宅マスタープランの策定にあたり、学識経験者・専門家・住民・行政関係者等による「検討委員会」、「WS(ワークショップ)」、個別検討テーマを対象とした「セミナー&ミニWS」を、それぞれ3回開催された。また、表3に示す、一連の複合的な参加の場における人的交流の中で、2003年1月より徳島大学総合科学部と上勝町の間で、住宅マスタープランや他の上勝町施策と連携する「地域連携プロジェクト」が新たにスタートした。

表3 上勝町住宅マスタープランをめぐる策定の経過 (印は、関連の動きを示す、WSはワークショップの略)

時期	内容
2000年	上勝町新振興計画策定、上勝町全町町民懇談会実施
2001年	上勝町全町地域懇談会実施 (WS方式、17回開催)
2001～2002年	徳島県・千年の森づくりWS、於上勝町・全6回
2002年	13日 第1回セミナー&ミニWS (グリーンキー)
11月	19日 第1回WS 24日 第1回委員会
2003年	14日 徳島大学総合科学部・上勝町地域連携会議
1月	23日 第2回WS 31日 第2回委員会
	25日 第2回セミナー&ミニWS(過疎地のIT居住)
2月	15日 第3回セミナー&ミニWS (参加型間伐住宅)
	15日 上勝まちづくり情報交流会
3月	14日 徳島大学総合科学部・上勝町地域連携会議
	06日 第3回WS 17日 第3回委員会
	29日 徳島大学総合科学部・上勝町地域連携シンポ

表4 住宅マスタープラン・ワークショップの概要

WS	検討テーマ
第1回 2002 12.19 17名参加	上勝町の課題とこれまでの取り組みの経過 今回計画の概要と視点 主な戦略的施策に関する意見交換
第2回 2003 1.23 18名参加	住宅配置の考え方 住宅マスタープランにおける優先施策 計画のターゲット層
第3回 2003 3.06 19名参加	住宅マスタープランにおける優先施策 拠点ゾーンの整備施策 今後の推進スケジュール

## 4. 住宅マスタープラン施策の概要

### (1) 計画の目標

表3に示す経過を経て策定された、住宅マスタープランの計画目標を表5に示す。

**表5 計画目標**

1. 現在、上勝町に住んでいる人が、将来も住み続けられること
2. 将来、上勝町に住みたい人が、新たに上勝町で住めること
3. 上勝町への訪問者が、上勝町民と共に心から交流できること
4. 上記で、環境・経済と雇用・コミュニティを守り育てること
5. 世界的視野での、新たな農山村居住ライフスタイルを確立し実践すること

### (2) 計画のターゲット

上勝町住宅マスタープランは、戦略的住宅施策・戦略的居住施策のもと策定され、検討委員会、専門家ワークショップにおいて、戦略的な視点からマスタープランのターゲットが議論された。

上勝町住宅マスタープランは、上勝町に住み続けられる計画であり、施策推進におけるターゲットへの施策配分イメージは、「町内の住民」に対して70%、「町外の住民（将来の上勝町住民）」30%の施策配分とする提案がなされた。図3に、ターゲットへの施策配分イメージを示す。

また、検討委員会、専門家ワークショップで提案された住宅マスタープランのターゲットの例を表6に示す。

<p>凡例</p> <p>：町内の人への施策 ：町外の人への施策</p> <p>町内 100% 町内 80% 町内 70% 町内 60% 町内 0%</p>
--

**図3 ターゲットへの施策配分イメージ**

**表6 ターゲットの例（町内・町外）**

<p>若者、子育て世代、高齢者、通勤圏内の勤労者、集落が望む人、集落の役割を担える人、田舎暮らしを望んでいる人、上勝町に住む価値を見いだしている人</p> <p>生活上の困難（特に病気）を解決する必要がある人</p> <p>町内出身者、SOHO、都市部の研究者、デザイナー、起業したい人、上勝町で研修したい人（グリーンツーリズム・エコツーリズム等）</p> <p>知識のあるリタイア層、定年退職者層、ほか</p>
--

### (3) 施策の体系と主要施策

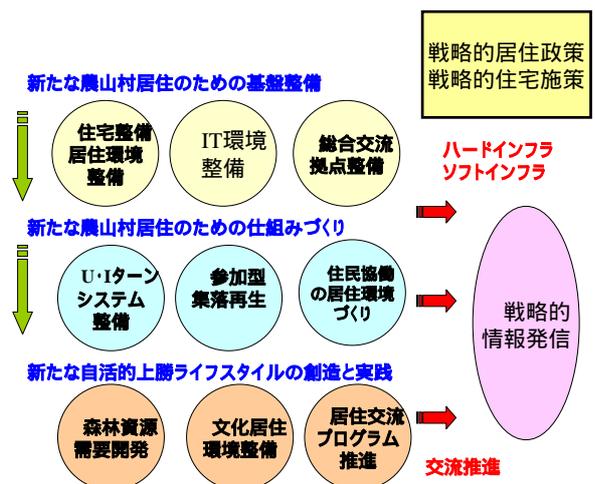
施策の体系、主要施策、施策関連図を表7、表8、図4に示す。

**表7 施策の体系**

1. 新たな農山村居住のための基盤整備
2. 新たな農山村居住のための仕組みづくり
3. 新たな自活的上勝ライフスタイルの創造と実践

**表8 主要施策**

種類	内容
1. 住宅整備・居住環境整備	通勤居住・集落再生居住による施策展開 / 住宅ストック・ニーズ調査、ほか
2. IT環境整備	IT基礎調査 / IT整備プログラムづくり / SOHO環境整備 / IT医療推進、TV受信環境整備、ほか
3. 総合交流拠点整備(福原地区)	コミュニティビジネス推進 / 参加型拠点ゾーン計画 / 社会実験の実施、「棚田デジカメ」PG、ほか
4. U・Iターンシステム整備、実施	Uターン・Iターンシステム整備（仕組み、メニュー、パッケージづくり） / Uターン・Iターン施策実施、ほか
5. 参加型集落再生	参加型集落再生プログラムづくり / 参加型集落再生プログラムの実施 / 人材確保・育成ほか
6. 住民協働の居住環境づくり	組織づくりと支援 / NPO、有限会社など定住促進組織づくり支援 / 行政参加の仕組みづくり、行政の役割、支援の方法、など
7. 森林資源の需要・開発	参加型・間伐居住施設づくり仕組みづくり / スギ・ヒノキ需要開発：木の香りコンペ、ほか
8. 上勝文化居住環境の整備	資源活用施策の推進：棚田居住施策推進、彩り居住施策の推進 / 資源創造施策の推進：参加型野外環境彫刻施策の推進 / 上勝文化居住WS開催、他
9. 居住・交流プログラムの推進	自然体験交流、環境保全交流、いやし文化交流、活動ネットワーク交流、定住化交流、産業創出交流
10. 戦略的・情報発信	戦略立案、戦略的情報発信・施策実施ホームページ作成・管理、ほか



**図4 施策関連図**

## 5. 個別施策

ここでは表5の主要施策の一部を紹介する。

### (1) 住宅整備・居住環境整備

上勝町は、5つの居住地区からなる。それぞれの居住地区で人口減少が進展しているため、集落再生居住と通勤居住による住宅整備・居住環境整備を進める施策となっている。

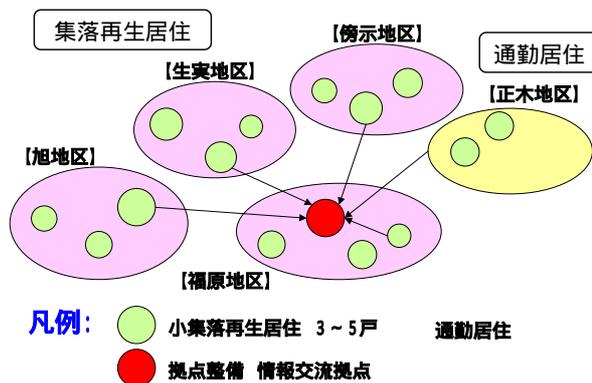


図5 住宅・居住施策の骨格イメージ図

### (2) 住民協働の居住環境推進のための組織づくり

多様な地域資源、多様な価値観、多様な課題等が山積する中で、望ましい上勝町での居住環境づくりには、行政だけの取り組みには限界があり、住民・活動団体・企業等の広範な参加・参画を得て、協働で居住環境づくりを進めることが必要となる。上勝町においては、上勝やらん会、座あさひ、俣示狸会、利再来上勝、上勝自然体験学習研究会など、多くの活発な活動団体があり、これら活動団体との連携は、単に居住環境づくりのみならず、地域資源を活用した、地域を元気にするコミュニティビジネス創造までつながる可能性が非常に高い。

住宅マスタープランでは、NPO や有限会社など定住促進のための組織づくり支援、関連基礎セミナー開催など、一連の住民等の協働に関する「組織づくりと支援」を行うとともに、これら住民等の協働における行政の役割、支援などを定める「行政参加の仕組みづくり」を行う。

### (3) 居住交流プログラム

居住交流プログラムは、上勝町における居住資源の活用と創造からなり、参加型・体験型・学習型・創造型・雇用創出型の「動的なプログラム」として計画されている。居住交流プログラムの目標を表9に示す。また、交流プログラム推進の流れと効果を図6に示す。

表9 居住交流プログラムの効果（目標） 単位 人/年

プログラムの種別	交流人口	定住人口	半住人口
A 自然体験交流	2,800	4	4
B 環境保全交流	1,200	30	30
C いやし・文化交流	23,200	15	15
D 活動ネットワーク交流	1,200	1	1
E 定住化交流	100	20	20
F 産業創出交流	1,500	30	30
計	30,000	100	100

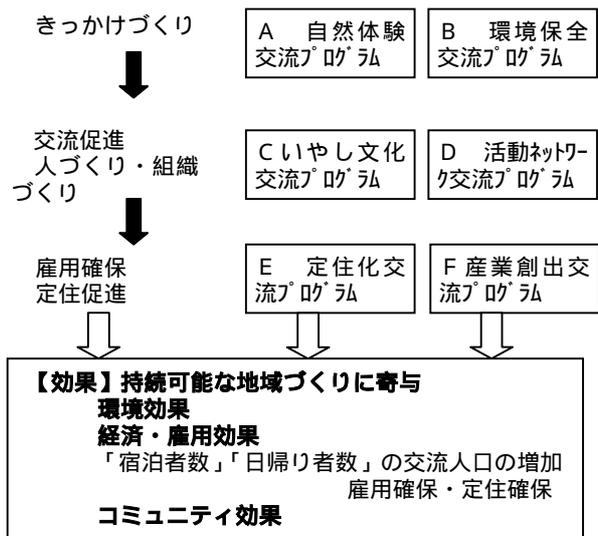


図6 交流プログラム推進の流れと効果

## 6. おわりに

過疎化が一層進展する上勝町において、持続可能な地域づくりを目的として策定されている戦略的な住宅マスタープランについて示した。今後の展開に向けて、自然の活用・自由時間の活用・自分の活用に着目した「新たな自活の上勝ライフスタイルの創造と実践」が推進の鍵になると思われる。